

「板かるた」はどこから

来たか？ —屯田兵と北海道文化—

市民学習会

9月3日(土)

14:00~

野幌公民館

1F 団体活動室



講師 河野民雄さん

(北海道史研究協議会会員、北海道屯田倶楽部理事)

第2次大戦後、娯楽の少なかった北海道で爆発的に流行した遊びに「下の句かるた」がある。本来は本州と同様に「お正月限定の遊戯」であったが、半年も雪に閉ざされる北海道では、12月頃から3月の雪解けまで、子供から老人まで夢中になって、屋外で遊べない不満をこの競技で発散させた。読み札は下の句しか読まず、取り札は縦75ミリ、横50ミリ、厚さ5ミリ程の木の板で作ったものを使うのが特徴で、荒っぽい北海道人の気性に合っていたのだろう。——河野民雄さんは、この「板かるた」の歴史を研究している。

東北から来た屯田兵が持ってきたとする説があるが、屯田兵以前に北海道に渡来していたという説も有力である。この学習会では「板かるた」の伝来を通して、永く内国植民地とされた北海道の文化の特質を考えて見たい。

主催/江別市郷土資料館友の会、江別ユネスコ協会

※一般市民・学生の皆さんの出席を歓迎します。(参加申込み不要・無料)

お問合せ先◇江別市郷土資料館友の会事務局(江別市郷土資料館内・担当佐藤☎385-6466)

◇江別ユネスコ協会事務局(教育委員会生涯学習課内・担当辻本☎381-1069)